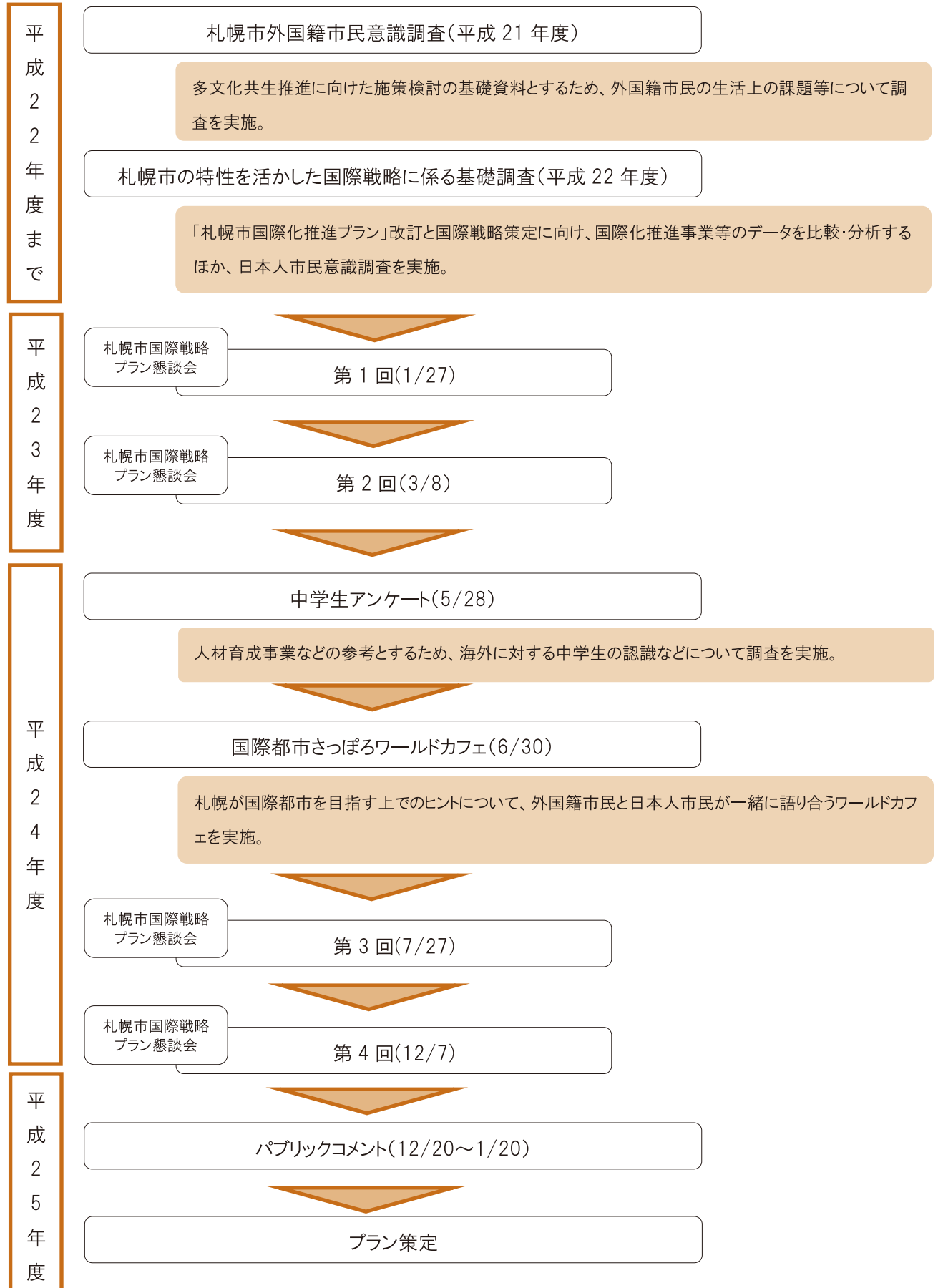


# 資料編

---

# 1 策定経過



## 2 国際戦略プラン懇談会

### ◆ 検討経緯

第1回 平成 24 年(2012 年) 1 月 27 日(金)

札幌市の国際化の状況について統計データを確認。札幌市国際戦略プランの策定概要について確認し、意見交換。

第2回 平成 24 年(2012 年) 3 月 8 日(木)

札幌市が目指す国際都市像と構成案について意見交換。

第3回 平成 24 年(2012 年) 7 月 27 日(金)

国際都市さっぽろワールドカフェの実施概要について報告し、プランとアクションプランの方向性について意見交換。

第4回 平成 24 年(2012 年) 12 月 7 日(金)

プランとアクションプランの骨子案について意見交換。

### ◆ 懇談会 委員名簿(敬称略)

氏名	職業(役職)
石井 吉春	北海道大学公共政策大学院 教授
雨貝 尚子	声楽家/北海道教育大学 名誉教授
石山 直人	株式会社JTB北海道 法人営業 札幌支店長
加藤 丈晴	北海道ひびき法律事務所 弁護士
加藤 由紀子	北海商科大学 准教授
木村 友樹	公募委員
熊谷 ユリヤ	通訳者/札幌大学 教授
佐藤 幹	株式会社札幌北洋カード 顧問
サムット・トゥンサリーカセート	北海道タイドットコム 代表
張 相律	株式会社北海道チャイナワーク 代表取締役

※役職は平成 24 年 12 月時点。

### ◆ 発言のポイント

<第 1 回>

ポイント	委員の発言
国際都市を目指す意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>-街を元気にする、その一つの材料としての国際化、国際都市を目指すということだと思う。</li> <li>-海外に出ても皆が知っている街になることで、誇れる街というものを作っていける。</li> <li>-訪れる人に住みやすい街だという印象を持ってもらうことも大切。</li> </ul>
札幌の国際化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>-札幌の国際化というのは、札幌の良いところを見出す一つの契機である。</li> <li>-国際都市かどうかということは、交流・定住人口で決まると思う。</li> <li>-札幌の行く末は北海道の行く末であるというぐらいの気構えで掘り起しをしなければいけない。</li> </ul>
資源の活用・戦略について	<ul style="list-style-type: none"> <li>-札幌の誇れるものを市民が知らない。</li> <li>-国際化のプランとして、もっと経済の部分の全面に出していく方がいいと思う。</li> <li>-課題を解決していく中で経済的なプラスの効果を生み出す視点が必要。</li> <li>-雪まつりの国際コンクールなどイベントと、北海道に住んでいる外国人の活用を図る。</li> </ul>

<第2回>

ポイント	委員の発言
海外との接点の少なさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>-北海道の人は外へあまり出て行かない。</li> <li>-パスポート発給者数も比較的少ない。</li> <li>-市民にとって「国際化」が身近な問題になってこない。</li> </ul>
若い年代の人材育成・国際感覚醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>-2050年ごろに経済を担う若い世代が「国際化」の考え方を自然に持っているべきであり、確実に届くためには、義務教育や高等教育の中で国際化について浸透させていくべき。</li> <li>-若い人に道外、海外への視点を持ってほしい。</li> </ul>
札幌のアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>-他者との比較があつてこそ自分を発見できる。</li> <li>-多くの転入者を受け入れながら発展した街。「文化の交差点」としての札幌という方向性。</li> <li>-「自然と文化」が一つのワードになる。札幌の強みを意識するのが良い。</li> <li>-札幌市を特色付けるキーワードが必要。</li> </ul>
札幌のライフスタイル (札幌の良いところ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>-札幌には春夏秋冬がある。どうやってアピールするかが重要。</li> <li>-空気が良い、水がおいしい。自然に近い都会である。</li> <li>-札幌といえば「雪」と思っている。</li> </ul>
経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>-暮らす上でどうやってお金を稼いでいくのかという要素の検討が必要。</li> <li>-良さの認識を外の視点でアピールすることに意味がある。</li> </ul>
受け入れ体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>-LCCの就航で、外国人が飛躍的に増える可能性がある。インドや東南アジアも含め、各宗教への対策をしっかりと取るべき。</li> <li>-ホスピタリティについて、接客などだけではなく、受け入れる土壌やインフラ全体を含めて考えるべき。</li> </ul>
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>-中東など暑い地域の富裕層にアピールしてはどうか。</li> <li>-札幌は積雪寒冷地としての取組はあまり盛んではないと思う。</li> </ul>
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>-企業のインターンシップを進めることで外国人(留学生)の増加につなげられるのではないか。</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>-他の自治体との連携が大切。相乗効果を狙うなど積極的に盛り込んでほしい。国内外の他の都市と組むのもよい。</li> <li>-NGOや市民団体との連携を加えてほしい。</li> </ul>

<第3回>

ポイント	委員の発言
施策の柱	<ul style="list-style-type: none"> <li>-まちづくり戦略ビジョンに沿って、外部と交流し、技術を持っていくという視点をかなり強く意識した方が良い。</li> <li>-どこかに創造性は入れたい。</li> <li>-いきいきと暮らす地域づくりということをもう少し広げた方がよい。</li> <li>-雪と結び付けて、札幌らしさをアピールするキャッチフレーズを考える。</li> </ul>
理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>-難しい単語は使わない方が良い。</li> <li>-今後10年で何をどう変えたいのかを示すのが理念である。</li> </ul>
重点戦略分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>-重点戦略としてのターゲットを明確にしないと、何をやるのか具体的な方向性が出せなくなる。</li> <li>-〇〇シティというキャッチフレーズをつけ、端的に札幌を言い表すものがあれば良い。</li> </ul>

ポイント	委員の発言
	<ul style="list-style-type: none"> <li>-人材育成はベーシックに常に行われるべきものであって、集中的にやる重点戦略に位置付けるのは違和感がある。</li> <li>-札幌の生活を売るという視点が重要。大都市でありながら自然と共生しているということをもっと前面に出した方が良い。</li> <li>-横断的な連携強化について、外国籍市民がまちづくりに参加するという視点と、色々な機会に常に外国籍市民がいるというのが一番いいと思う。</li> <li>-ターゲット地域の明確化について、欧米と積雪寒冷地の交流というのはテーマが明確化というより分散している気がする。</li> <li>-長期滞在者と短期滞在者では対策が違うはずなので分けた方が良い。</li> </ul>
アクションプラン施策 項目案	<ul style="list-style-type: none"> <li>-芸術・文化・スポーツについて、札幌のように野球、サッカー、バスケットボールのプロチームが三つもある地域は日本でもなかなかないので、国内にも、アジアの観光客にも受け入れられるものになるよう発信してほしい。</li> <li>-観光客に喜ばれるのは雪まつりやスキージャンプ、中島公園である。</li> <li>-札幌市と北海道が協働して、ビザに対する障壁を低くする取組を行っていくべきである。</li> <li>-マレーシアの教育庁が学生の相互交流の受付やセッティング等の対応を行い、クオリティを上げている。現在日本には対応部署がないので、この機会に整理するのも必要である。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>-インフラ整備にWifiの整備は必ず入れていただきたい。まず地下歩行空間と地下街を完全にフリーWifiにして、スマートフォンのアプリで観光情報が全て見られるようにしたい。</li> </ul>

#### 第 4 回

ポイント	委員の発言
札幌市国際戦略プラン 骨子案【概要版】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-国レベルの問題があったとしても、札幌市は世界の市民とできるだけ協力をして、平和的に市民交流する、ということから「世界が憧れるまち」となることが出来る。そういうイメージを持たせることが必要。</li> <li>-人材に残ってもらうだけではなくて、世界の人材を取り込むというような、企業誘致のようなニュアンスが入っていると良い。特に発信という言葉を入れて欲しい。</li> </ul>
【戦略推進の考え方】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-「海外ネットワークの活用・拡充」の部分で、札幌にいる外国人の人材活用を取り上げて欲しい。人材に残ってもらうために札幌はどう海外にネットワークを作っていくのかが大切である。</li> <li>-外国籍市民の子どもも、大人も、自分たちの考えを表明できて、市民権を得て自己実現を図っていくための環境整備という視点が弱い。</li> <li>-外国人の既存のネットワークを把握しておくべきである。</li> <li>-外国人の方はコミュニティの果たす役割が大きい。そこに行政がどう繋がっていくか、という視点は問題提起というレベルでもいいので表記すべき。</li> <li>-「連携の推進」のところに北海道も入れておいた方が良い。</li> </ul>
【戦略推進の考え方/ ターゲット地域について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-基本方針にある「互恵的」という動きが伝わるような言い回しを加えるべき。</li> <li>-今後 10 年を考えると、現在挙がっているターゲットを主としながらも、広くレバレッジを取っておくことが必要。</li> <li>-ターゲット地域の中でも、直行便があるところは特に重要である。</li> </ul>

ポイント	委員の発言
【まちづくり戦略ビジョンとの整合性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-まちづくり戦略ビジョンと併せるのには、あまり具体的に拘束されないような表現を国際戦略プランに盛り込む方が良い。</li> <li>-国際戦略プランの中の環境に関する表記の中で、国際協力だけではなく、先進的な情報共有や情報発信について、まちづくり戦略ビジョンにつながる内容を書くべき。</li> </ul>
2013年～2017年度アクションプラン(骨子案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- (政策を)作る段階から外国人も参加する、様々な人を活用するということを札幌の新しいビジョンや基本方針として明記した方が良い。先進的な取組をしている、ということも示せる。</li> <li>-ソーシャルメディアをもっと目につくように表記すると良い。</li> <li>-アクションプランには、従来やっていることの延長上と見えないような、具体的な何かを盛り込んだ方がいいと思う。</li> </ul>
【基本方針Ⅱ 施策の柱1】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-外国籍市民やその子どもが、母国のコミュニティの中で支援やサポートを受ける機会を保障するという視点もあると良い。</li> </ul>
【基本方針Ⅱ 施策の柱2】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-国際感覚豊かな人材の育成と活用、という部分で、日本人の国際感覚を養うのに外国籍市民を活用する、ということも可能であると思う。</li> <li>-異文化理解を深める交流の拡大の部分に留学生の活用も加えてほしい。</li> <li>-外国籍の子どもの受け入れについて、教育のあり方まで踏み込む必要があるので、国際化に関連するセクション以外にも、連携先を広げるべきである。</li> </ul>
【評価指標について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>-施策項目が達成されたかということでも良いと思う</li> <li>-外国人定住者の数も指標に入れてほしい。外国人定住者は、街や産業が良くないと残ってくれない。</li> <li>-市立大通高校での外国人生徒の受け入れ者数を指標に加えるのが良いと思う。</li> <li>-指標を複数設定し、どのように評価できるかを試行的に進捗管理していくのが良い。</li> <li>-市にとって、ノルマとなり得るような、札幌市が実行主体となる指標を敢えて設定して欲しい。</li> <li>-海外からの研修受け入れ人数の部分について、単に来た人の数ではなく、札幌から海外に派遣した人数も入れるべき。</li> <li>-北大などで行われる国際会議の参加者などを評価指標に加えるのも良い。</li> <li>-国際プラザが担う数字を評価指標に入れるのも良い。</li> <li>-評価指標の数値については、関連づけられるところからスタートし、慎重に設定していくべき。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>-イメージの時代であるので、キャッチフレーズを公募し、積極的に使っていくべきである。</li> </ul>

### 3 国際都市さっぽろワールドカフェ

国際都市とはどのような都市か、また、札幌が国際都市を目指すうえでのヒントについて、外国籍市民、日本人市民と一緒に、ワールドカフェの手法により、自由に語り合いました。

なお当ワールドカフェは、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」策定の市民参加事業と一体的に実施し、同ビジョンへも意見が反映されています。

#### ◆ 日時・会場

平成 24 年(2012 年)6 月 30 日(土)14:00～

アスティ 45 16 階 ACU(アキュ)大研修室

#### ◆ 参加者数

100 人(外国籍市民 36 人、日本人市民 64 人)

#### ◆ 話し合いの流れ

5人程度のグループに分かれ、下記のテーマについて、順次メンバーを入れ替えながら話し合い

- ① 「あなたが思う国際都市とは？」  
↓(席替え)
- ② 「あなたが思う国際都市さっぽろとは？」  
↓(最初のテーブルに戻る)
- ③ 「さっぽろが国際都市になることでどんな良い変化が生まれますか？」  
↓(各自付箋に書き出し)
- ④ 「わたしたちが望むこれからの”国際都市さっぽろ“は○○なまち！」  
↓(話し合った結果をまとめ用紙に書き出し)

全体共有 各テーブルでそれぞれのまとめを完成させ、まとめについて発表。





## ◆ 主な意見

ポイント	意見
国際都市像	<ul style="list-style-type: none"> <li>-人が集うまち・発信のまち</li> <li>-おしゃれでいき・笑顔あふれる挨拶をする・大志をいだいてクリエイティブ(宇宙規模)・新しい歴史を作るまち</li> <li>-自然発生的なまち～国際都市という枠を与えられるのではなく内側から一人一人が～</li> <li>-堂々たる2流国際都市</li> <li>-世界中の技能者が集まり、長期滞在できて、楽しめる街</li> <li>-北海道の大自然なまち</li> <li>-じまんできるまち！アピールするまち、また来たいまち、話し合うまち</li> <li>-外国人が住みたい・訪れたいまち～国際感覚のある人々が集うまち・学びに行きたいまち・外国人が働き易いまち・世界とつながる町～</li> <li>-幸せなまち→目指せブータン・外国人が集える街、テーマがある街→ストーリー性</li> <li>-人にやさしく楽しく自由で住みやすいまち</li> <li>-住みやすいまち～人にやさしいまち・ハピネスなまち～</li> <li>-活気で満ちあふれたまち</li> <li>-心の壁がないまち～ここからはじまる～</li> </ul>

雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>-外国人の雇用を増やすことが必要</li> <li>-東京からの企業の誘致で雇用を生み出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-外国人が働ける条件の整備</li> <li>-海外からの企業誘致</li> </ul>
経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>-支店の街から本店の街へ。ビジネスを創るための支援体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-ビジネスがない。ビジネスの創出が必要</li> <li>-クリエイター(技能者)の招聘</li> </ul>
交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>-日本人の市民と外国人とが一緒にコミュニケーションをとる機会の創出</li> <li>-片言の英語でいいから話すこと</li> <li>-ロシアとの交流がもっとあれば良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-誰でも、途中からでも気軽に参加できるような交流機会の創出</li> <li>-観光客と市民の交流の機会の創出</li> </ul>
札幌の良いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>-食べ物がおいしい</li> <li>-なまりのない日本語が魅力的(留学生誘致に有利)</li> <li>-住みやすさ</li> <li>-自然と都市が共存している</li> <li>-人柄のよさ、マナーの良さ、親切さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-アウトドアアクティビティと生活</li> <li>-温泉のある人口100万都市であること</li> <li>-開放的なおらかさ</li> <li>-皆が外国人であるので、差別や区別が少ないこと</li> <li>-治安が良い</li> <li>-ウィンタースポーツが出来る都市であること</li> </ul>
受け入れ態勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>-公共交通機関を安く、易しく、便利にする</li> <li>-国際便の増便</li> <li>-空港を利用しやすく整備すること</li> <li>-街中で観光情報を入手できる場所が少ない</li> <li>-観光スポットを充実させること</li> <li>-Wifiを普及して欲しい</li> <li>-初めて来た外国人が頼れるような人・場所の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-ユニバーサルマークを増やすこと</li> <li>-バス車内の英語表記対応をすること</li> <li>-アピールポイントはあるが、発信することと受け入れ態勢が出来ていない</li> <li>-仕事がないこと、まだ偏見があることが定住にあたってのネックとなっている</li> <li>-札幌に住む日本人市民が外国人に慣れていない</li> <li>-外国人のために各種手続きを易くして欲しい</li> <li>-ビザの審査が厳しいこと</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>-イベントを年間通じて行うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-現在あるイベント(祭りなど)の強化を行って欲しい</li> </ul>
発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>-良さをPRする力が弱いので強化が必要である</li> <li>-情報は英語表記付きでWeb(SNS含む)で表示して欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-さっぽろ広報をアプリ対応させて欲しい</li> <li>-アイヌ文化を世界に発信すること</li> <li>-農業と食を結びつけて、北海道独自の食文化を発信する</li> </ul>
意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>-札幌市民が札幌の良さを知ること</li> <li>-市民一人一人の国際化の意識の向上-自分たちが外国、海外を経験してみること</li> <li>-“外国人”という意識をなくすこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-札幌人が札幌に誇りを持つこと</li> <li>-海外の人から吸収し、自分達の生活に反映させるという意識が必要</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Made in Sapporo のコスメティックの製造</li> <li>-教育(国際人の育成)が重要</li> <li>-札幌は国際都市になれる要素が十分にある</li> <li>-通過点ではなく、滞在型となるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-芸術、ダンス、映画などの文化を向上させること</li> <li>-創成川周辺を活性化させること</li> <li>-札幌とニセコをつなぐ活動をする</li> <li>-学生(留学生)が興味をもつ仕組づくり</li> </ul>



## 4 札幌市外国籍市民意識調査（抜粋）

### ◆ 調査の目的

多文化共生のまちづくりを効果的に推進していくために、外国籍市民の市政に対する意見はもとより、彼らの生活上の課題等について情報を集約、分析することにより、生活情報や支援に対するニーズを的確に把握し、今後の施策立案や情報提供等に反映させていくことを目的とする。

### ◆ 調査の方法

・項目：札幌市で日常生活を送るにあたって必要となる、住居や保健福祉、行政サービス、子育て、地域参加などを中心に調査を実施。

- ① 言語 日本語能力、日本語学習状況・学習意欲、得意な言語
- ② 住居 住居形態、住居探しで困ったこと
- ③ 情報・相談 情報の入手先、利用するホームページ、広報媒体の利用状況、相談相手、必要とする情報
- ④ 行政サービス 行政サービスの認知度、区役所などで困ったこと
- ⑤ 保健福祉・医療 公的保険の加入状況、公的保険の未加入理由、保健・医療で困っていること
- ⑥ 防災 災害対策の認知度
- ⑦ 交通 よく利用する交通機関、公共交通機関を利用しない理由
- ⑧ 子育て、教育 子どもの有無と就学状況、義務教育修了後の進路、未就学の理由、子どもの日本語能力、子ども・教育の悩み
- ⑨ 地域参加 地域住民との付き合い、各種活動への参加状況、交流意欲
- ⑩ 仕事 就業状況、職種、仕事を見つけた方法
- ⑪ その他 必要な多文化共生施策、意見・要望等

・対象：市内に外国人登録を行っている18歳以上の外国籍市民

・手法：無作為抽出、郵送（往復）による調査

・回答数：337件（送付件数2,000件、回答率約18.4%）

・実施時期：平成20年（2008年）8月14日～9月11日

・調査報告書 URL：[http://www.city.sapporo.jp/kokusai/intl\\_research.html](http://www.city.sapporo.jp/kokusai/intl_research.html)

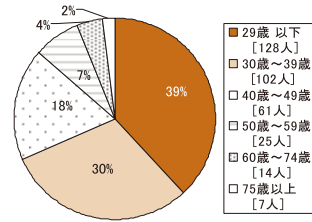
## ◆ 調査結果 (抜粋)

### 回答者の属性

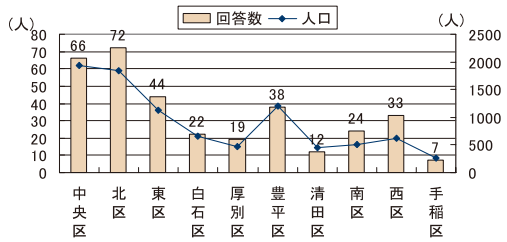
#### 問1 性別



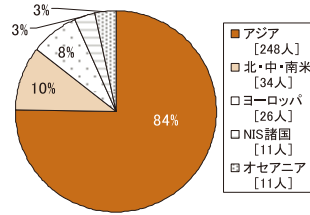
#### 問2 年齢



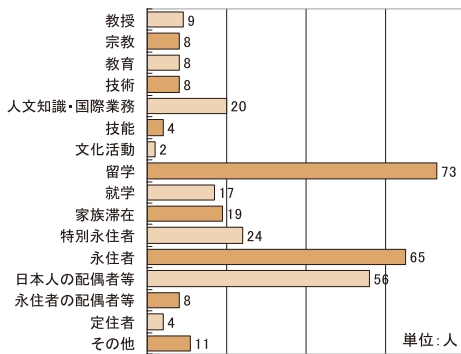
#### 問3 居住区



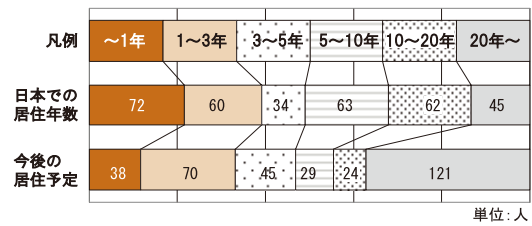
#### 問4 国籍



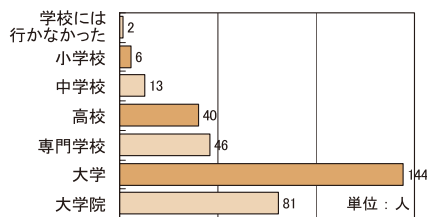
#### 問5 在留資格



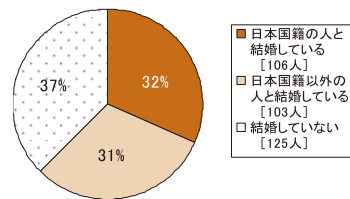
#### 問6、7 日本での居住年数と今後の居住予定年数



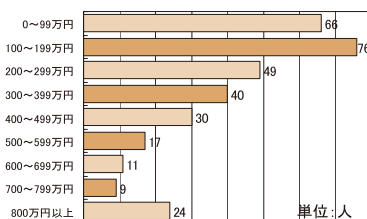
#### 問8 学歴



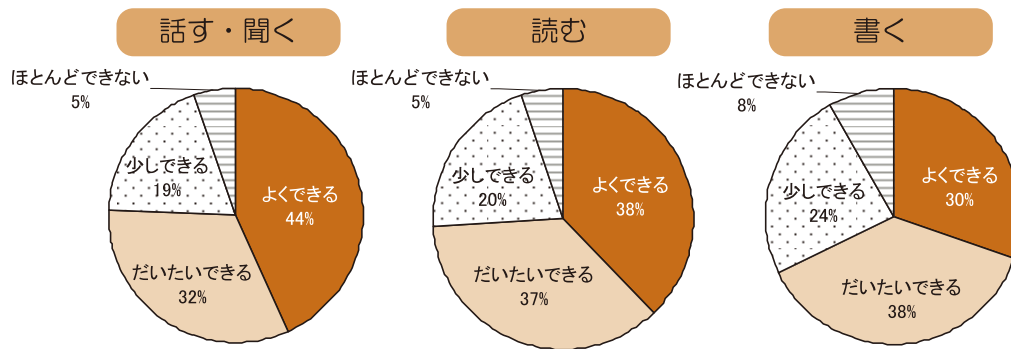
#### 問9 結婚状況



#### 問10 世帯収入

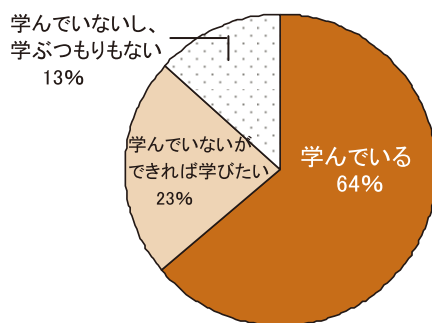


**日本語能力** : 日本語をどのくらいできますか？



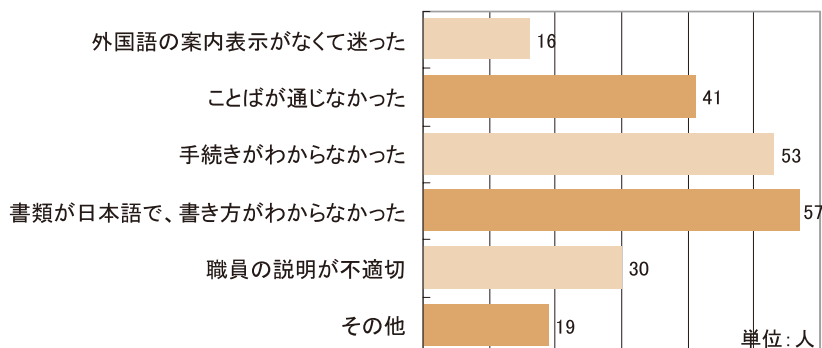
難しい文章でも問題なく読める人は 38%ですが、ひらがなやカタカナの簡単な文は 95%の人が理解できます。簡単な単語を使ったり、漢字にふりがなを付けることで、より多くの外国人に伝えることができます。

**日本語学習状況** : 日本語を学んでいますか？また、これから学びたいと思いますか？



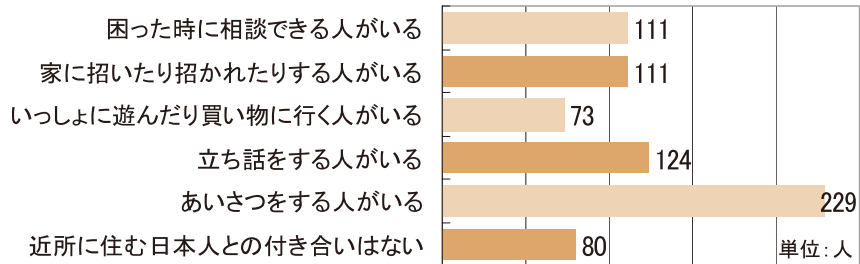
87%の人が、日本語を学んでいたり、今後学びたいと考えています。また、日本語を学ぶつもりがないと答えた人の多くは、すでに日本語を習得している人でした。

**区役所などで困ったこと** : 区役所などで困ったことはありますか？



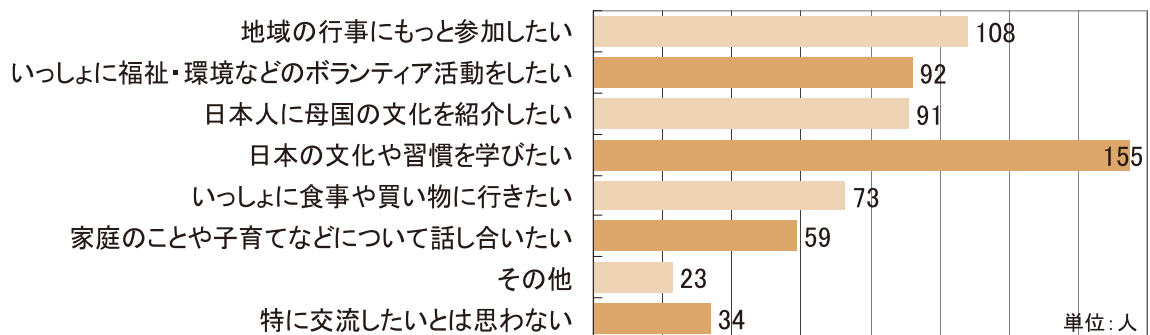
「書類が日本語で書けない」「ことばが通じない」など、言語上の問題で困ったという回答が多く、今後、日本語が十分に理解できない人たちへの対応が必要だと思われます。

**地域住民との付き合い** : 近所に住む日本人との付き合いで、あてはまるものをいくつでも



近所に相談できる日本人がいる人が3割以上いる一方、全く付き合いのない人が2割います。

**交流意欲** : 今後、地域の日本人とどのような交流をしたいと思いますか？



日本の文化や習慣を学びたい、日本人に母国の文化を知って欲しい、地域の行事やボランティア活動に参加したいと、多くの外国籍市民が回答しています。